



2025年4月
第760号

日本基督教団 平塚教会
発行人 平塚教会
編集人 中山洋司
〒254-0045 平塚市見附町6-18
電話 〇四六三(32)八八三一



鶴見教会問題と平塚教会問題

平塚教会牧師 北川一明

あなたがたにはささいな事件すら裁く力がないのですか。

(コリントI六・2、3より)

「教会は、その地に住む『信徒のもの』であって牧師のものではない。牧師は信徒が選んで招聘した、外から来て外へ帰る伝道者である」と、神学校で教師たちは口を酸っぱく言っていました。ローマ・カトリック教会などの「監督制」の教会はそうではありません。牧師や司祭は上位団体から派遣されます。信徒は選べません。平塚教会の元々の伝統であるメソジスト教会は監督制で、牧師は派遣されるものでした。しかし戦争中に日本基督教団に加入した時から招聘制に変わり、教会は『教派のもの』から『信徒のもの』になりました。

教会の重要な事柄はその教会の現任陪餐会員が決定

します。自分たちの教会だからです。しかし会員は教理を系統立てて学んでいるわけではありません。教理に基づかず教会の事柄を決めると、教会は神の力が働く場ではなくなり、ただのキリスト教愛好サークルになってしまいます。そこで意思決定に際しては牧師の意見を聞いて決定を下します。

牧師の意見を聞いてもなお現任陪餐会員の意見が別れた場合は多数決で決めます。多数決は利益の奪い合いではありません。会員各人の利害損得ではなく、教会会議の決定は神の御心と信じるという前提で、御心を尋ねて投票するのです。

深刻な多数決になりそうな案件は、事前に多数派工作をすることになるでしょう。「多数派工作」と言えば聞こえは物騒ですが、真面目に考えなければ「どっちでも良い」という程度にしか思えないでしょう。反対者からは多数派工作に見えることも、実際は真面目に考えて自分の意見で教友を説得しようとしているに過ぎません。

教会員ではない外部の有識者に意見を求めることもありません。最終の決定に部外者を関与させることさえ

目次

鶴見教会問題と平塚教会問題

牧師 北川一明 …1

2・11集会報告 見えない呪縛から

自由になるために 中村寛志 …3

世界祈禱日集会

山田美千代 …3

チャイルド・ファンド・ジャパン

西川涼子姉からのお手紙 …4

編集後祈

…4

なければ、意見は広く求めるに如くはありません。ただ現実には、教友の説得も外部の意見も本来は良いことであるはずなのに教会を分裂させる結果になりがちです。

近隣の牧師などに意見を求めても、その人は教会の内実を知りません。そこで意見がほしい人は、事情を自分の主観で説明します。個人の説明には偏りがあるので、その結果アドバイスも偏ります。説明が偏るのは教友を説得する場合も同じです。

外部に相談するのは他の問題もありません。相談を受けた人は、その教会を自分の影響下に置くチャンスと捉えます。それは本人の我欲とは限りません。自分の教会だけでなく相談してきた教会も正しく整えたいという善意からかもしれません。しかし教会に外部の権威のようなものが持ち込まれては、教会内部の話し合いは、なかなか良いものにはなりません。

西湘南地区の委員長を拜命して神奈川教区常置委員会に陪席することになりました。新体制の教区三役が決まった後の最初の会議で、半世紀間引きずっている「鶴見教会問題」のレクチャーを受けました。夜の六時から始まる、審議案件が二二件も

ある会議の二〇分間を使って、一人の当事者（常議員）が説明しました。要するに教会が分裂したということですが、一方の側の見解しか聞けませんでした。

他の教区でも同じ経験をしたことがあります。先日の常議員の思想とその教区の主流派の思想は、政治的な右、左で別ければ真反対です。それなのに自説を通すための方法は全く一緒です。一方的な意見を反論のできない閉鎖環境で長時間行うのはカルト教団の洗脳と変わりません。おそらく洗脳の意図はなく、「正義を実現したい」という気持ちなのでしょう。それでも手法は疑問です。

神奈川教区には昔「平塚教会問題」があったと聞きます。具体的なのは最早遠い過去のことです。蒸し返すメリットは無いでしょう。ただ教会が大事な決定をする時は筋を守るということを忘れては不幸です。外部の人は関与しません。信徒が決めます。

一票の重みは信仰に入って間もない人でもベテランでも同じです。献身的で信仰深い人と我欲で教会を利用しようとする人とても全く同じ一票です。日本基督教団

の教会の中には、他宗教の若者が大勢転入した挙げ句に他宗教に乗っ取られた所があると聞きます。間抜けな話に聞こえますが、高齢化して信仰の継承に悩んでいる教会だったのでしよう。

人に洗礼を授けて教会員にする場合は、教会は事前にその人の信仰を吟味する試問会を開きます。既に現任陪餐会員である人は主日礼拝を守り常に聖餐に与ります。そうでなければ多数決の際に神の御心を聞くことができません。ベテラン信徒であっても信仰が歪むことがあります。その場合は「陪餐停止」や「除籍」の戒規を執行して教会の信仰を守りつつ、その信徒の信仰をただ努力をします。

もつとも信仰は各人の良心の問題でもあります。教会の決定に従うことが信仰の良心に反すると思ったら、まず悔い改めの思いをもって自分の意見を自分で再吟味します。それでも教会の決定に従うことが間違いだと思えば別の教会に移ります。

牧師なら辞任するし、信徒なら転会することになります。感情的になる必要はありません。近所付き合いは親しく続けて良いですし、信仰の交わりも継続できれば良い証しになります。

2・11集会報告

見えない呪縛から自由になるために

中村寛志

2月16日、当教会を会場にして「思想・信教の自由を守る日 2・11集会」が開かれました。講演の概要と私の感想等を交えて報告します。

講師は、日本バプテテスト連盟東京北教会の細井留美牧師。講師の父は、硫黄島で戦死した祖父の遺児でした。「天皇制の元に敷かれた徴兵制」との関わりを持った講師から、「天皇制から信教の自由を考える」との演題でお話が進められました。始めに、出エジプト記20章2・3節より「…私をおいて他に神があつてはならない。」という個所が紹介されて講演が始まりました。「国のために戦死した者は神になる」という戦前の流れが、現在にも影響していることとして、戦争ではなく勤務中の事故で亡くなった自衛官の遺骨が、クリスチャンである遺族の元に戻されず、地方の護国神社に神として合祀された事件では、今もそのままであり、信教の自由を侵害されたとの訴えから始まって、既に25年余りを経過しています。自衛官は、戦闘員なのか、戦死ではなく事故死でも神になるのかと

いう疑問が出されています。信教の自由を犯す靖国思想、ひいては国のやり方には、憲法20条の信教の自由に反する行為を、違憲とする訴えに関する裁判例の紹介が多数ありました。戦前に、天皇制の中で定められた国民の祝祭日は、新憲法下でも名前を変えて生き残っています。紀元節は「建国記念日」に、天長節は「天皇誕生日」から「みどりの日」として、明治節は「文化の日」に、新嘗祭は「勤労感謝の日」に。天皇制の呪縛は、今も暦の裏から日常的に続いている事を再認識させて頂きました。

戦時中の教会は、「皇国キリスト者」として、完全に絡めとられていた実情についても知ることが出来ました。「あの時は仕方なかった」ということで、今も戦争に対するキリスト者としての責任を感じない、責任を取らないことに対して、しっかりととした反省と謝罪を、これからの方向として整えて行くことが、現在のキリスト者に求められています。課題として考えつつ新たな信仰告白に立つ機会でもあります。国や権力を持つ者は、「神というもの」

の元に、国民の意識や想いを集中させて、全体を自分達の思うところに率いて行くとうとします。権力者のねらいは、全体が平和な時は害と気付かれませんが、戦争や他国との対峙状態になろうとする時、「神というものは利用され、「神というもの」の元に集中させられて行きます。

私達が礼拝している神様は違います。私達を自由にし、しかも統制を取りながら全ての人の平安と癒しをもたらす神様です。私達人間が神になることは無く、神となつて祀られるようなことも出来ないし、ありえません。「神」は、唯一の方です。既に居られる方、在(いま)す方です。9教会、23名の参加者でした。

世界祈禱日集会

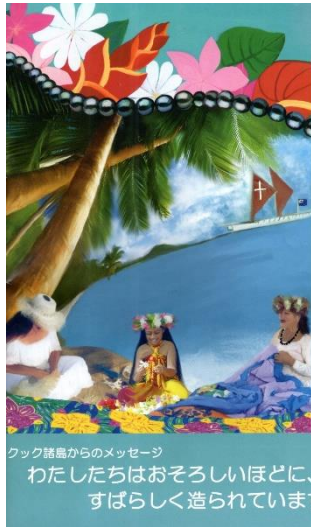
山田美千代

3月7日、世界祈禱日集会が開催されました。12教会47名の出席でした。私は毎年3月の第一金曜日に世界各地で礼拝が行われているくらいの知識しかありませんでした。今年は平塚教会が会場でした。中山姉・武田姉が中心になり私も準備から参加させて頂きました。

南太平洋のクック諸島の「わたしたちは

恐ろしいほどにすばらしく造られてい
ます」というメッセージに沿って礼拝を進め
ていきました。冊子に従い朗読箇所があり、
それぞれマイクを通して読んでいきました。
中にはお一人で一頁以上読んでいただく
所もありました。説教は大磯教会の鈴木憲
二牧師でした。ドキドキ約一時間の礼拝で、
最後の讚美歌は緊張が解け、ホッとして大
きな声で歌っていました。

世界祈禱日2025



礼拝後、次年度への引継ぎの会に出席し
ました。世界祈禱日集会への出席教会の減
りや高齢化等で、今まで通りスムーズに引
き継ぐことが難しくなってきたようです。
藤沢教会の黒田牧師から提案いただき、出
席できる教会の中で会場を決め、無理にな
らないように簡素化し、あと一・二年頑張

ってみましょう。そして、また問題を考え
ていきたいと思います。幸せなことに来年の会場は辻堂教会が引
き受けてくださいました。

役員の中から担当として1877年か
ら続いている世界祈禱日集会に参加させ
ていただきましたが、他教会の皆様と祈り
を合わせる機会をいただき感謝いたしま
す。

チャイルド・ファンド・ジャパン 西川涼子姉からのお手紙

2月23日チャイルド・ファンド・ジャパ
ン（CFJ）の西川涼子姉をお招きして、
平塚教会の取組を事例に活動の目的や具
体を分かり易くお話ししていただきました。
教会員の皆様からの質問もあり、今後
の活動に向けた熱気が感じられました。お
手紙をいただきましたので掲載します。



CFJ 西川涼子姉

主の御名を賛美いたします。

先日皆様とともに礼拝にあずかり、貴重
なお時間をいただいてチャイルド・ファン
ド・ジャパンについてお話をする機会を
ありがとうございました。色々不手際があり、
申し訳ありませんでした。

ご質問頂いたネパールの平均収入につ
いて、その場でお答えできず恥ずかしく思
っております。調べましたところ2024年
の統計で国民一人当たりのGDPが日本が
約34,000ドル、ネパールが約1,300ドルで
した。1ドル140円で計算しますと、平均
年収がネパールは18万円、日本が475万円
と計算できると思います。

お祈りとご支援をよろしくお願い申し
あげます。御教会のご発展をお祈り申し
あげます。

主に在りて

チャイルド・ファンド・ジャパン
支援者サービス課 西川涼子

「編集後祈」

新しい年度に向かってスタートの月と
なりました。不易流行、主の栄光が限りな
く注がれる教会になりますようにと祈り
ます。

(編集子)